

◇地域社会のなかで、実践力を身につける学びの場

本学が所在する知多半島を拠点とし、地域の経済振興やまちづくり、観光等、さまざまなテーマで学生が実践的なフィールドワークを行っています。これらの活動は、文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択されています（「知多広域圏活性化にむけた学生の地域参加 一学部の実践型教育の強化を通じて」）

このほかに、特色GP・現代GP各3件、21世紀COE、大学院GP2件等が採択されています。



◀東栄町廃校活用プロジェクト

廃校となる小学校区の方たちに廃校活用プランを提案するプロジェクトメンバー。



蔵の街プロジェクト▶

半田市で開かれた「蔵のまち雛祭り」の会場で、まちの魅力を調査するアンケートを行いました。



◀観光の伝統と革新プロジェクト

中部国際空港（セントレア）を運営する会社と連携して利用者の意識調査を実施しました。



海の文化とものづくりプロジェクト▶

南知多町にある神社に出かけて灯籠、狛犬、鳥居等を採寸。歴史資源のデータをまとめました。

キャンパス散策（日本福祉大学）



1953（昭和28）年4月、社会事業従事者の養成を目的として、愛知県名古屋市に中部社会事業短期大学が創立されました。当時は学生数83名、専任教員6名の小規模な短大でしたが、福祉を学ぶために全国各地から学生が集いました。1957（昭和32）年4月、日本で最初の四年制の社会福祉学部が発足し、日本福祉大学と改称しました。その後、1983（昭和58）年に愛知県知多半島に総合移転し、現在では4学部8学科、4研究科を設置して約12,000名（通学生6,000名、通信生6,000名）

が学ぶ総合大学に発展しました。本学が所在する知多半島は伊勢湾、三河湾に囲まれた風光明媚な地であり、近年は中部国際空港（セントレア）が開港されるなど、名古屋市近郊の産業と歴史・文化の調和のとれた地域として注目を浴びています。



▲美浜キャンパス上空より伊勢湾（中部国際空港）方面を臨む。



▲指定アパートは学習環境にも最適です



▲全国のキャリアアドバイザーが名古屋に集結



▲障害学生支援センターの掲示板には学生ボランティア募集のチラシが



▲アメリカンフットボール部「WINGS (ウイングス)」

◇卒業生、地域社会と連携した学生支援

■快適で安全な下宿生活をサポート

全国各地から学生が集う「全国型大学」であり、現在約6,000名の在學生（通學生）の2人に1人が下宿生です。そのため、大学から公共交通機関等を利用して30分以内の距離に大学指定のアパートを用意して、大学と家主組合が協力しながら快適で安全な大学生活をサポートしています。

■同窓生のネットワークを生かした就職相談

本学では、約56,000名の卒業生が全国各地で活躍しています。在學生の就職支援の一環として、医療、福祉、公務員分野を中心とした同窓生の協力を得て、全国各地で就職相談会を開催しています。また、各県の地域同窓会には在學生の進路相談に対応するキャリアアドバイザーを配置しています。

■障害学生とともに学び合うキャンパス

障害学生を含めた、すべての人が学びやすいキャンパスづくりに取り組んでいます。障害のある学生のサポート窓口「障害学生支援センター」が設置されているほか、学生ボランティアによる活発な学習支援が行われ、障害学生とともに学びあう環境を整備しています。

■自主性、社会性を身につける“サークル活動”

本学には、100近い公認サークルがあります。体育会系、文化・芸術系をはじめ、子どもや障害者とふれあうなど、福祉と関わりのあるサークルも活発に活動しています。また、学生が地域における各種大会・イベント等の企画運営、運営補助を行うなど、地域社会のなかで様々な人たちと触れ合うことで人間的な成長を促す機会となっています。

<表紙>日本福祉大学半田キャンパス

1995(平成7)年、愛知県半田市との公私協力により開設。知多半島総合研究所、生涯学習センターを設置して、地域と協働した事業を行っています。